



Copyright © 2015 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

# 目次

---

- 改訂情報
- はじめに
  - 本書の目的
  - 対象読者
  - 本書の構成
- IM-ContentsSearch for Accel Archiver機能概要
- コンテンツ作成仕様
  - コンテンツ作成対象
  - コンテンツの情報
  - ファセット
  - 閲覧可能権限
- クローラの種類
  - Accel Archiverクローラ
- テンプレート仕様
  - 検索結果表示項目

## 改訂情報

---

---

変更年

月日      変更内容

---

2015-      初版  
03-13

---

# はじめに

---

## 項目

- 本書の目的
- 対象読者
- 本書の構成

## 本書の目的

---

本書ではintra-mart Accel Archiverのクローラの機能概要と仕組の詳細について説明します。

## 対象読者

---

次の利用者を対象としています。

- intra-mart Accel Archiverの全文検索機能（IM-ContentsSearch）を管理する運用担当者

次の内容を理解していることが必須となります。

- intra-mart Accel Platformの仕様
- IM-ContentsSearchの仕様
- intra-mart Accel Archiverの仕様

## 本書の構成

---

本書は次の構成となっています。

- [コンテンツ作成仕様](#)

コンテンツ作成仕様について説明します。

- [クローラの種類](#)

クローラの種類について説明します。

- [テンプレート仕様](#)

検索結果画面のテンプレート仕様について説明します。



### コラム

#### 用語解説

Storage として使用するディレクトリを %PUBLIC\_STORAGE\_PATH% と略します。  
「intra-mart Accel Archiver」 以下、iAA と略します。

# IM-ContentsSearch for Accel Archiver機能概要

「IM-ContentsSearch for Accel Archiver」は、intra-mart Accel Archiver に登録されているドキュメントに対し、全文検索を実行できるようにするための機能です。  
ドキュメントの状態により全文検索を実行できるユーザが異なります。

ドキュメントの状態	全文検索を実行できるユーザ
<ul style="list-style-type: none"> <li>最新レビジョンとして登録されているドキュメント (レビジョン管理していないドキュメントも含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドキュメントに対し閲覧できる権限を持つユーザ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>旧レビジョンとして登録されているドキュメント</li> <li>申請～承認中のドキュメント</li> <li>公開前のドキュメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「Accel Archiver 管理者ロール」を持つユーザ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>一時保存中のドキュメント</li> <li>ごみ箱内のドキュメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのユーザも検索できません (全文検索の対象となりません)</li> </ul>

## コンテンツ作成仕様

### 項目

- コンテンツ作成対象
- コンテンツの情報
  - 標準フィールド
  - 動的フィールド
- ファセット
- 閲覧可能権限

## コンテンツ作成対象

以下状態のドキュメントをコンテンツの作成対象とします。

- 最新レビジョンとして登録されているドキュメント  
(レビジョン管理していないドキュメントも含む)
- 旧レビジョンとして登録されているドキュメント
- 申請～承認中のドキュメント
- 公開前のドキュメント

## コンテンツの情報

Accel Archiverクローラでは、コンテンツの作成対象となったドキュメントに対し、以下の内容でインデックスの情報を登録します。

### 標準フィールド

No	フィールド名	設定値	備考
1	ID	wdc_%ドキュメントID%	コンテンツを一意に識別するIDです。
2	TYPE	wdc	コンテンツのタイプです。
3	URL	docref/docref?docId=%暗号化したドキュメントID%	ドキュメント参照画面のURLです。
4	ID_ORIGINAL	ドキュメントID	コンテンツの元データにおける一意なキーとなるIDです。
5	TITLE	ドキュメント名 (レビジョン管理されたドキュメントの場合：ドキュメント名(ドキュメント版数))	コンテンツのタイトルです。

No	フィールド名	設定値	備考
6	TEXT	なし	
7	ATTACHMENT	iAAのコンテンツとして登録された電子ファイル または 変更履歴に登録された電子ファイルのファイル名、及びファイル内の文字データ	
8	RECORD_DATE	ドキュメントの作成日時 (Date型)	

## 動的フィールド

No	フィールド名	設定値	備考
1	WDC_DOC_INPUT_DATE	ドキュメントの作成日時 (Date型)	
2	WDC_DOC_INPUT_DATE_STRING	ドキュメントの作成日時 (String型)	yyyy/MM/dd HH:mm:ss形式
3	WDC_DOC_INPUT_USER_CD	ドキュメントの作成者のユーザコード	
4	WDC_DOC_REVISION_NAME	ドキュメントの版数	
5	WDC_FOLDER_ID	ドキュメントの所属フォルダID	



### コラム

タイトル (TITLE)、添付ファイル (ATTACHMENT) に登録した内容が検索時に検索対象となるフィールドです。

## ファセット

Accel Archiverクローラは作成されたコンテンツに対して“Accel Archiver”というファセットを適用します。

## 閲覧可能権限

ドキュメントの状態により、以下の権限が設定されます。

ドキュメントの状態

閲覧可能権限として設定される内容

---

・最新レビジョンとして登録されているドキュメント  
(レビジョン管理していないドキュメントも含む)

ドキュメントのアクセス権限として設定されているユーザ、組織、ロール、パブリックグループ

---

・旧レビジョンとして登録されているドキュメント

- ・申請～承認中のドキュメント
  - ・公開前のドキュメント
-



## クローラの種類

### 項目

- Accel Archiverクローラ
  - クローラ仕様
    - 最終クロール日時
  - クローリング
    - 差分クローリング
    - 削除クローリング
    - 再作成クローリング

## Accel Archiverクローラ

iAAのコンテンツの差分クローリングと削除クローリングと再作成クローリングを行うジョブです。

ジョブカテゴリ IM-ContentsSearch クローラ

ジョブID wdc-crawler

ジョブ名 Accel Archiverクローラ

Accel Archiverクローラジョブは以下のジョブネットに登録されています。

- 差分クローリング (ジョブネットID: crawler-delta-jobnet)
- 削除クローリング (ジョブネットID: crawler-delete-jobnet)
- 再作成クローリング (ジョブネットID: crawler-reindex-jobnet)

## クローラ仕様

### 最終クロール日時

Accel Archiverクローラでは、処理が正常終了した場合にクローラの最終実行日時をファイルに保存します。

差分クローリング実行時にはこのファイルを参照し、前回の実行日時より後にコンテンツの登録・更新対象となったドキュメントを抽出します。

日時のフォーマットは **“yyyy-MM-dd HH:mm:ss”** です。

最終クロール日時を保存するファイルは、クローラジョブの初回正常終了時にPublicStorageの以下のディレクトリに保存されます。

- %PUBLIC\_STORAGE\_PATH%/products/im\_contents\_search/store/%テナントID%/last\_crawling\_date/wdc.json

ただし、削除クローリングが実行された場合、最終クロール日時は **“2000-01-01 00:00:00”** に初期

## 初回実行時の動作仕様

初期状態の場合、最終クロール日時を保存するファイルは存在していません。

この場合、既定値として”2000年1月1日0時0分0秒”を最終クロール日時として動作する仕様になっています。

初回実行時の対象日時を明示的に指定したい場合は、上記ファイルを作成して対象日時を上記の日時フォーマットにて設定してください。

## クローリング

### 差分クローリング

#### 差分クローリング実行時の登録・更新対象

差分クローリング実行時にコンテンツの登録・更新の対象となるドキュメントの条件は、最終クロール日時以降で、登録、編集または削除されたものです。

#### 差分クローリング実行時の実行パラメータ

差分クローリング実行時には差分クローリングのジョブネット、および、Accel Archiverクローラのジョブ情報に設定されている以下の実行パラメータが利用されます。

キー	説明
crawlingType	クローラの動作タイプを設定します。”DELTA”である場合のみ差分クローリングは動作します。
groupName	処理対象とする検索サーバグループIDを指定します。
maxSegments	最適化の度合いを設定します。
withCommit	処理終了時に更新データを確定するかを設定します。
withOptimize	処理終了時にデータの最適化をするかを設定します。

### 削除クローリング

Accel Archiverクローラが作成したコンテンツをすべて削除します。

#### 削除クローリング実行時の実行パラメータ

削除クローリング実行時には削除クローリングのジョブネット、および、Accel Archiverクローラのジョブ情報に設定されている以下の実行パラメータが利用されます。

キー	説明
crawlingType	クローラの動作タイプを設定します。”DELETE”である場合のみ削除クローリングは動作します。

キー	説明
groupName	処理対象とする検索サーバグループIDを指定します。
maxSegments	最適化の度合いを設定します。
withCommit	処理終了時に更新データを確定するかを設定します。
withOptimize	処理終了時にデータの最適化をするかを設定します。

## 再作成クローリング

Accel Archiverクローラが作成したコンテンツをすべて削除し、作成対象のドキュメントのコンテンツを再度登録します。

### 再作成クローリング実行時の実行パラメータ

再作成クローリング実行時には再作成クローリングのジョブネット、および、Accel Archiverクローラのジョブ情報に設定されている以下の実行パラメータが利用されます。

キー	説明
crawlingType	クローラの動作タイプを設定します。“REINDEX”である場合のみ再作成クローリングは動作します。
groupName	処理対象とする検索サーバグループIDを指定します。
maxSegments	最適化の度合いを設定します。
withCommit	処理終了時に更新データを確定するかを設定します。
withOptimize	処理終了時にデータの最適化をするかを設定します。

項目

- 検索結果表示項目

## 検索結果表示項目

Accel Archiverクローラが作成したコンテンツの検索結果で全文検索画面に表示されるコンテンツの表示項目は以下です。

- タイトル（ドキュメント名）
- ドキュメントの作成日時
- ドキュメントの所属フォルダのパンくずリスト
- ドキュメントの作成者
- ドキュメントの作成日
- 要約

全文検索画面の「検索の設定」 - 「要約表示」 - 「表示する」チェックボックスにチェックを付けて検索した場合に表示されます。

### 検索結果画面例

#### [A社案件見積書](#)

2014/08/06 17:18:53 案件管理>A社案件

作成者：青柳辰巳 作成日：2014/08/06

見積書.docx

A社様案件見積書

〇〇株式会社

**i** コラム

検索結果のタイトルリンクをクリックすると、新しいウィンドウでドキュメント参照画面を表示します。

**ドキュメント参照**

ドキュメント名	A社案件見積書
コンテンツ	<p><a href="#">見積書 docx</a> A社様案件見積書 -&gt;株式会社 実施日 2014/04/01 登録日 : 2014/08/06</p> <p>-----</p> <p>A社様案件見積書</p> <p>-----</p> <p>〇〇株式会社</p>
作成者	香柳辰巳
作成日	2014/08/06
フォルダ名	案件管理>A社案件
タスクタグ	
関連ドキュメント	

プロパティ

アクセス権

分類	名称	権限
ユーザ	香柳辰巳	<input checked="" type="checkbox"/> 編集 <input checked="" type="checkbox"/> 参照